

2018年度 環境報告書

「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」
と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいつ



Photo by Takashi Endoh

伝統的な文化や産業、みどり豊かな山々、そしてきれいな水にめぐまれたこの福島県をこどもたちや孫たちの世代に伝え残していきたい。



＜はじめに＞

2018年の夏は、全国各地で40℃を超える日が観測され、7月23日には埼玉県熊谷市で観測史上最高気温を更新する41.1℃を記録しました。「災害級の暑さ」という言葉がテレビで流れ、熱中症対策のため「不急不要の外出」を避けるように呼び掛ける場面も見られました。会津でも、猛暑日が観測されるようになってきました。

このような「異常気象」は、毎年何度も発生しており、地球温暖化が進んでいることを実感するまで進んできました。

「地球温暖化」対策には、省エネなどによる「緩和策」だけではなく、変化した気候のもとで悪影響を最小限に抑える「適応策」の双方の温暖化対策が必要になってきています。

しかし、「緩和策」の効果が現れるには長い時間がかかるため、早急に大幅削減に向けた取り組みを開始し、それを長期にわたり強化・継続していかなければなりません。

コープあいづでも事業活動の中で、多くの資源やエネルギーを使っており、地球温暖化に影響を及ぼしていますが、持続可能な発展と経済成長を目指し、環境・経済・社会の観点で人と環境に調和した事業活動を進めていかなければならないと考えています。

その為、環境方針の理念として『豊かでくらしやすい地域を大切に、子孫に対して、人類共通の財産である美しい地球を残すため、環境保全に配慮した事業活動を行います。経済と環境が両立した「持続可能な社会づくり」の為に、循環型システムの構築と人類共通の課題である地球温暖化対策をすすめます。原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの推進の為、施設や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの利用促進を行います。』を謳っています。

私たちは、組合員と一緒に環境問題を暮らしの問題として捉え、一緒になって地球温暖化問題などへの取り組みを進めていきます。そして、「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしている。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。

誰一人取り残さない
～NO ONE WILL BE LEFT BEHIND～

※この「環境報告書」は、組合員や地域の皆様へのご報告する為に2018年度の活動を取りまとめたものです。皆様方の率直なご意見やご指導なども頂ければたいへんありがたく思います。



環 境 方 針

***** 理 念 *****

生活協同組合コープあいづは、「一人は万人のために 万人は一人のために そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、持続可能な社会を実現する」という 21 世紀の生協の理念に基づいて、環境問題に取り組みます。

豊かで暮らしやすい地域を大切に、子孫に対して、人類共通の財産である美しい地球を残すため、環境保全に配慮した事業活動を行います。

経済と環境が両立した「持続可能な社会づくり」の為に、循環型システムの構築と人類共通の課題である地球温暖化対策をすすめます。

原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの推進の為、施設や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの利用促進を行います。

*****コープあいづが目指すこと（ビジョン）*****

「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。

***** 方 針 *****

生活協同組合コープあいづは、組合員の暮らしと地域社会に貢献するために、事業活動における環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

環境関連の法令、条例、その他受入れを決めた要求事項などを遵守します。

1. 地球温暖化の原因となるCO₂の排出量削減のために、省エネ機器への改修や変更を行い、温暖化防止自主行動計画を推進していきます。
2. 温暖化防止対策として、電気や燃料などの、エネルギーの効率的な使用に取り組みます。
3. 商品の管理水準を高めて廃棄ロス等を減らすとともに、事業活動から発生する廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
4. 商品事業における環境配慮を推進していきます。
5. 組合員さんと一緒に、地域の環境保全活動の推進や生物多様性の保全活動に取り組みます。
6. 事業の効率化や、環境破壊につながる車両事故を減らします。

以上の活動を進めるため、コープあいづの組合員の為に働くすべての人に環境教育を実施します。
この環境方針を広く公開し、環境活動の取り組み状況について定期的に、公表します。

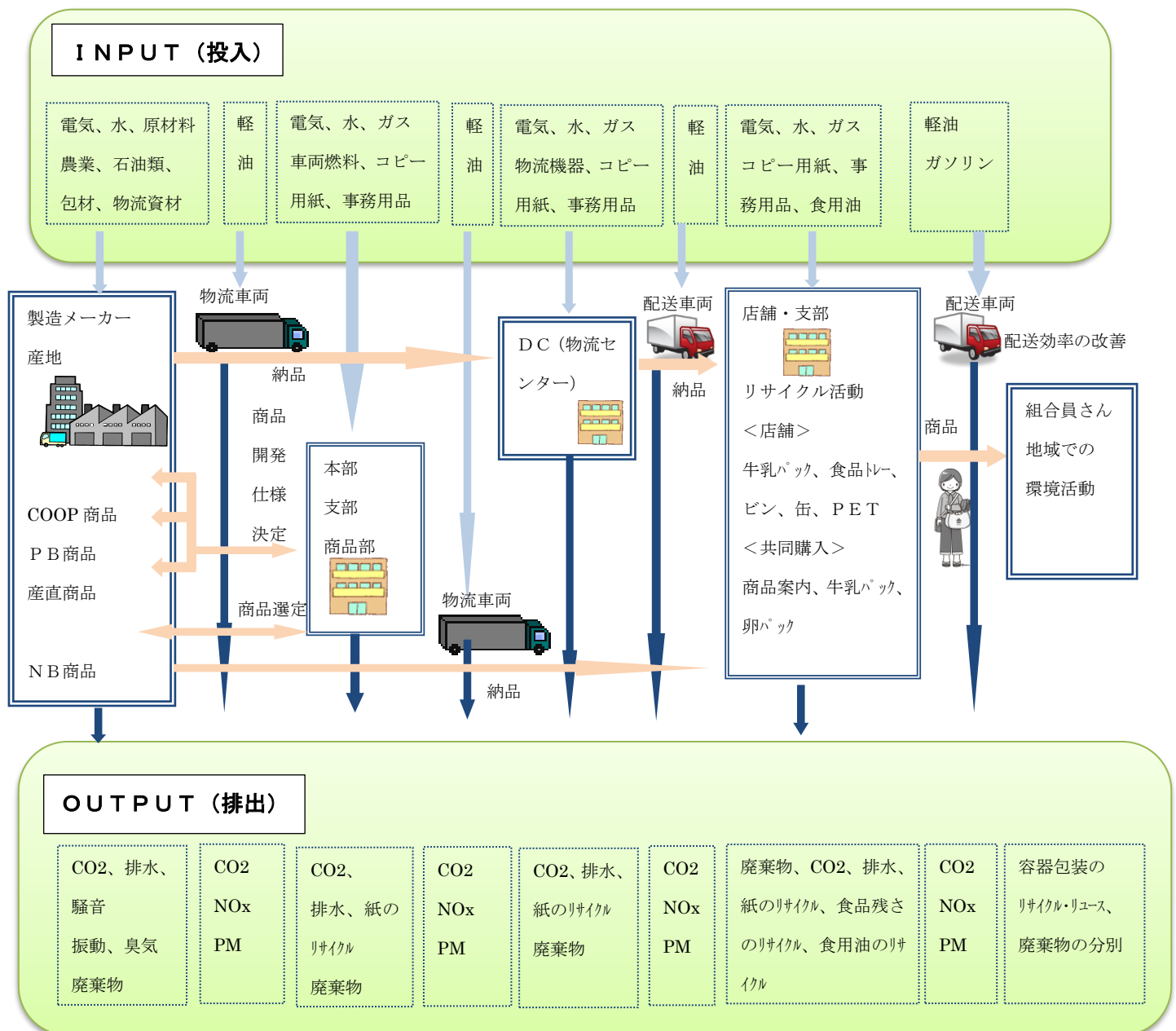
2017年5月22日制定
生活協同組合コープあいづ
理事長 吉川毅一

コープあいつの事業活動に伴う環境負荷

コープあいつでは、多くの資源を利用して事業活動を行っています。それに伴って多くの不要物を排出しており、環境への影響を与えています。

コープあいつでは、それらの量を計測し、環境マネジメントシステムを活用して環境負荷の低減の為に活動に取り組んでいます。

コープあいつの事業活動における環境影響フローを下に示します。



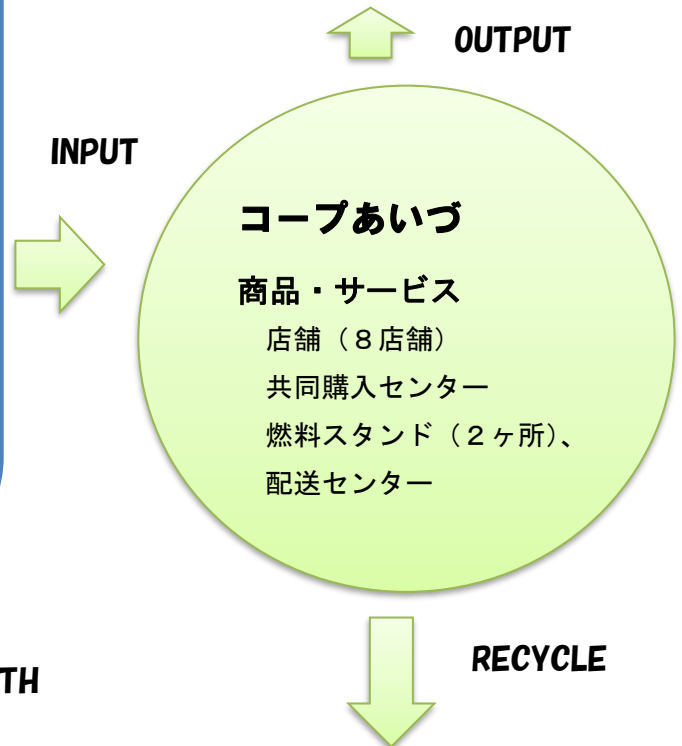
2018 年度 事業活動による環境負荷

主な INPUT（投入）

- 商品 ■工用原材料
- エネルギー、水資源（前年比）
 - 電気・・・9,216,069 kWh (99.7%)
 - ガス（LPG）・・・79,358m³ (89.4%)
 - 水・・・45,495m³ (102.0%)
 - 灯油・・・19,511ℓ (43.9%)
 - ガソリン・・・20,490ℓ (89.5%)
 - 軽油・・・99,828ℓ (98.1%)
- 資材（前年比）
 - レジ袋・・・4,486kg (103.2%)
 - 容器包装資材（トレイ・ラップ等）
 - ・・・115,789kg (103.1%)
 - 内袋・・・1,900kg (126.7%)
 - ドライアイス・・・40,380kg (121.8%)
 - コピー用紙・・・9,199kg (92.6%)
 - 新聞チラシ・・・54,392kg (96.3%)
 - POP 用紙・・・5,116kg (95.1%)
 - 商品案内・・・292,320kg (104.7%)

OUTPUT（排出）

- 廃棄物（前年比）
 - 一般廃棄物・・・227,506kg (88.3%)
 - 産業廃棄物・・・69,590kg (133.9%)
- 大気への排出（前年比）
 - CO₂・・・4,736 t (97.1%)
 - フロン（CO₂）・・・818.3t (61.8%)



RECYCLE（リサイクル）

- 事業活動の中で取り組んでいるもの（前年比）
 - 商品案内・・・321,400 kg (100.1%)
 - 共同購入シッパー内袋・・・1,900kg (126.7%)
 - 食品残さ・・・159,329kg (87.3%)
 - 廃食油・・・10,143kg (95.9%)
 - 新聞・雑誌・・・7,120kg (115.6%)
 - ビン・缶・ペット・・・14,438kg (200.2%)
 - ダンボール・・・330,406kg (97.4%)
- 組合員のリサイクル活動（前年比）
 - 牛乳パック・・・10,719kg (112.3%)
 - 発泡トレイ・・・6,162kg (91.5%)
 - 透明トレイ・・・5,208kg (66.2%)
 - 新聞(エコテ)・・・6,475kg (120.1%)
 - 雑誌(エコテ)・・・24,599kg (87.3%)
 - ダンボール(エコテ)・・・8,874kg (80.6%)
 - ペットボトルキャップ 240kg (80.0%)

持続可能な社会を目指して

コープあいづは、協同の力でSDGsの17の目標に取り組めます

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは「誰一人取り残さない「No one will be left behind」ことを宣言し、経済、社会、環境をめぐる幅広い課題に、統合的、包括的に全世界で取り組むことを決めたものです。

生協は21世紀理念として、「自立した市民の協同の力で人間らしくらしの創造と持続可能な社会の実現を」と掲げています。私たちは、その理念実現の為に事業や活動を行っており、SDGsの理念と重なる部分が多くあります。



17 パートナリープで目標を達成しよう



目標の17に「パートナーシップで目標を達成しよう」というものがあります。様々な課題を解決するためには、協同の力が不可欠です。生協は、助けあいの組織として、誰もが笑顔で暮らすことができ、持続可能な社会であることをめざしてきました。誰も取り残さないというSDGsが求めるものは、生協の理念と重なり合っています。

コープあいづが目指すこと（ビジョン）として「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。と謳っています。

組合員さんの暮らしは地域にあり、願いを実現していくためには、組合員さんとのつながりを大切に、行政やお取引様の皆様とも連携し、課題の解決に努めていきたいと考えています。

エシカル消費 エシカル、それは誰かの笑顔につながるお買い物

エシカル消費（倫理的消費）とは？英語の“Ethical Consumption”の和訳です。

「地域や社会、環境や人に配慮して、モノやサービスを買う消費のあり方」のことで、生協では、イメージ表現として、「誰かの笑顔につながるお買い物」としています。商品やサービスを選ぶときの基準に、「美味しい」「安い」だけでなく、エシカルな価値、「地域」「環境」「社会」「人」を追加する事です。

エシカル消費は、SDGsの17の目標を達成するための重要な手段です。

買い物をすると、自分視点だけではなく、環境や地域など、他者への視点をプラスする「エシカ

12 つくる責任 つかう責任



ル消費」を通じ、商品を作る側と使う側がそれぞれの責任を意識することで世の中が変わり、持続可能な社会につながると期待されています。

そのため、コープあいつでは「エシカル消費」対応商品の利用拡大を目指しています。

中でも「海のエシカル」「森のエシカル」「プラスチック問題のエシカル」を重点として取り組んでいます。



<海のエシカル>



私たちの食卓に欠かせない魚介類。大切な海の恵みは、捕りすぎればその種が減るばかりか、生態系のバランスをも崩す可能性があります。

生協では、持続可能な漁業を推奨する団体が認証した海のエコラベルと言われる「MSC認証」や「ASC認証」の商品の利用普及を行っています。

共同購入で人気の「背取りさばの味噌煮」やフィッシュソーセージなどを普及しています。

<森のエシカル>



森には、多数の生き物が住んでいます。その森は、私たちに必要な木材や食料、水や空気なども恵んでくれます。その森が失われつつあります。私たちは、その森を守り続けたいと願っています。

適切に管理されたパーム油でつくられた商品につけられるRSPO認証マーク商品の普及に努めています。セフターエナジーなどがその商品です。

持続可能な農業を営む農園で育てられた商品につけられるレインフォレスト・アライアンス認証を受けたチョコレートやコーヒーの普及を行いました。

ティッシュやミックスキャロットの箱や容器など、適切に管理された森林資源で作られた商品につけられるFSC認証マークのついた商品の普及を行いました。



<プラスチックのエシカル>



プラスチックは、私たちの身の回りでたくさん使われていますが、石油資源から作られており、大量に使用することは地球温暖化の原因となります。また、近年では海洋汚染にも深刻な影響を与えています。

私たちは、容器包装の削減や3Rの推進、パッケージの一部を再生プラスチックに変更したり、植物由来のものにかえるなど取り組んでいます。

<その他>

- ・ コアノンロールシリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じてアンゴラ共和国に寄付され、安全な水の整備やトイレの設置などに役立てられており、昨年度全国の生協による第8期の募金総額は、約1,163万円にもなります。
- ・ コープヌードルやカップスープなどの対象商品をキャンペーン期間中にご購入いただくと、1品に



つき1円を国連WFPに寄付され、飢餓に苦しむカンボジアの子どもたちに学校給食を届けるために活用されています。昨年度全国の生協による募金総額は約489万円となっています。



- ・ それ以外にも、生産者と消費者がつながって日本の農畜水産業を応援する取り組みも行っています。

環境マネジメントの取り組みを進めています

環境マネジメントとは、PDCAを回していくマネジメントシステムを活用して継続的改善を繰り返す行うことで環境負荷の低減や資源やエネルギー効率を高める取り組みです。

コープあいづは、事業活動を行う中で、電気・ガス・灯油・ガソリン・軽油などのエネルギーを大量に消費し、廃棄物を大量に排出しています。持続可能な発展をしていくためには、経済社会活動のあらゆる局面で環境への負荷を減らしていかなければなりません。

コープあいづは、事業活動を環境にやさしいものに変えていくために効果的な手法である「環境マネジメントシステム」を活用して、環境負荷の低減や資源やエネルギー効率を高める取り組みを行っています。

また。昨年度からは、この仕組みに内部統制の課題を統合した仕組みに改善し、コンプライアンス体制の強化も図ってきました。

内部統制の課題を取り込むことで、環境に関わる法規の順守評価だけではなく、個人情報保護や労働安全衛生などに関しても適切に評価し改善していく事によって、遵法を確実にいき、コープあいづとしての社会的責任やコンプライアンスの向上に努めてまいります。

マネジメントシステムを仕事に活かします

環境マネジメントに取り組むことで、省資源や省エネルギーにつながり、結果的に環境だけではなく、経費節減にもつながります。また、コンプライアンスや組織内部の管理体制、業務の効率化にもつながるとも言われています。

コープあいづでは、この仕組みを活用することで、組織のマネジメント力を高め、経営に活かしていきたいと考えています。

その為、目標設定ではこれまでのCO₂、電気、ガス、廃棄物の削減などに加え、店舗の廃棄ロスの削減や宅配事業の利用人数、36協定違反などの業務課題を環境マネジメントの中で取り組んでいます。

教育を実施しています

内部統制課題取り入れたマネジメントシステムへとステップアップしたため、テキストにも内部統制についての内容を追加し、個人情報程手順や震災対応マニュアルなども再度掲載し、遵法内容について改めて確認しました。

併せて、コープあいづがマネジメントシステムを活用し、業務改善に活かしていく事について、再度確認を行いました。

全職員への教育についても、これまで以上にテキストの内容が増えましたが、震災時の対応などの再確認やコンプライアンスの大切さや違反したときの影響などについても学ぶ内容としました。

その他、日常的な教育では、毎月職員全員に配布する部内報で「ちょこっとECO」を連載して、環境問題への意識づくりや行動につながるヒントなどを紹介してきました。



事故緊急事態対応への準備をしています

コープあいづは、灯油スタンドや事業所で使用する車両で使用するガソリンや軽油のタンクを持っています。万が一灯油やガソリンなどが流出したことを想定した訓練や防油堤が正しく機能するかなどのテストを行って緊急事態発生への対応への準備をしています。

また、店舗では大勢の方が利用されていますので、火災や地震などは発生した時には、適切な初期消火訓練や組合員や従業員などの避難誘導を行うことが必要です。その為、消防法に定められた訓練を実施し、火災や震災が起こった時の避難誘導がスムーズにできる様に訓練を行っています。また、消火器の使用についてもいつでも使用できるよう、水消火器などを使った訓練を行い、いざという時には、組合員の命や生協の財産が守れるよう備えをしています。

内部環境監査を強めていきます

現在、コープあいづではISOの認証を受けていませんが、仕事の効率や遵法などを担保するため、内部監査を強化することが大事だと考えています。

内部環境監査のレベルを強化し、マネジメントシステムを仕事に活かしていくため、内部監査員として、各事業部の部長や店長などの責任者を任命しています。

環境マネジメントを発展させていきます

コープあいづは、ISO14001の認証を返上していますが、これからも、地球温暖化防止の為の活動を更に強化し、更により経営にも役立ち、業務推進を強化していけるようなマネジメントシステムを構築していこうと考えています。

これからも環境にやさしい事業活動を推進していきます。そして、「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指して活動をしていきます。

地球温暖化防止対策 CO₂削減の取り組み



気候変動問題は地球規模の課題であり、その解決のためには世界中のすべての国が参加し、公平で実効性のある新たな国際枠組の構築が必要となります。

COP21で採択されたパリ協定や昨年7月に国連に提出した「日本の約束草案」を踏まえ、日本では地球温暖化対策を推進するための計画「地球温暖化対策計画」が2016年5月13日に閣議決定されました。この計画では、温室効果ガスの排出量を2030年度に2013年度比で26%削減するとの中期目標について、各主体が取り組むべき対策や国の施策を明らかにし、長期的目標として2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指すことを位置付けています。

この計画に対し、事業活動を行っている生協としても中長期的な計画づくりが求められます。

生協の取り組み

これまでも全国の主要生協が参加し、「自主行動計画」を策定し温室効果ガス削減の取り組みを進めてきましたが、より実効性のある温室効果ガス削減計画の策定が求められてきており、日本生協連の呼びかけにより2030環境目標検討委員会を立ち上げました。

そこで、温室効果ガス削減目標の目指すべき水準として、「2030年目標：CO₂排出総量を2013年比40%削減する。2050年目標：CO₂排出総量を2013年比90%削減する。」との目標が提起され、全国の生協も目標の検討を行い、具体的な目標を設定してきました。



コープあいつの目標を決めました

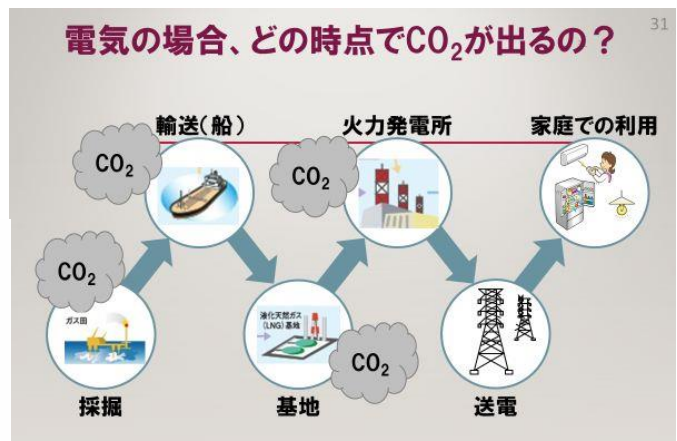
温室効果ガスの排出量を、2030年までに2013年比40%以上削減する。2050年までに90%以上削減する。

地球温暖化は、私たちの暮らしを脅かします。持続可能な社会づくりを進めていくためにも、温室効果ガスの削減はコープあいつとしても重要な課題と捉え、具体的な目標を設定して取り組みを進めていきます。

今後、事業活動で温室効果ガス排出の多くを占める店舗の冷凍ケースや空調機の高効率化や日業業務での無駄をなくしたり、省エネ活動を推進すること、温室効果ガスの排出量の少ない電気などへの切り替えなどを検討し、削減目標を達成するための活動を進めていきます。



電気の場合、どの時点でCO₂が出るの？



CO₂の総量削減に取り組んでいます。～昨年より約 141t削減できました～

2018年度、コープあいづのエネルギー起因によるCO₂排出量は4,736 tの実績となりました。

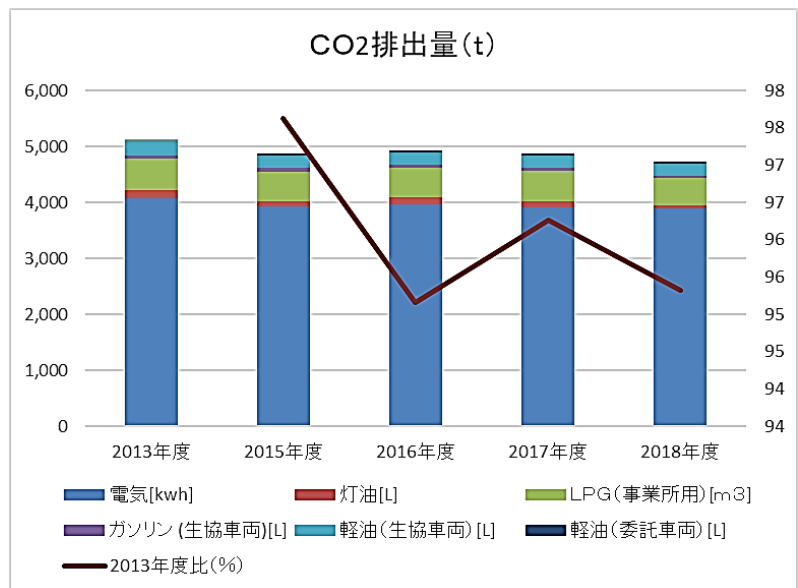
発生源をエネルギー別でみると、ほとんどが電気によるものとなっています。次にLPG、宅配事業による軽油の使用の順となります。

総排出量は、前年より約141tの削減で、前年より約3%の削減ができました。

これは、ばんげ店がリニューアルの為に半年ほど仮店舗での営業だったこともあります。新店舗では、高効率でフロンを使用しないCO₂冷媒の冷凍ケースに変更したこと、暖房機を灯油式のものから高効率の電気式空調機に変更したことが削減につながっています。

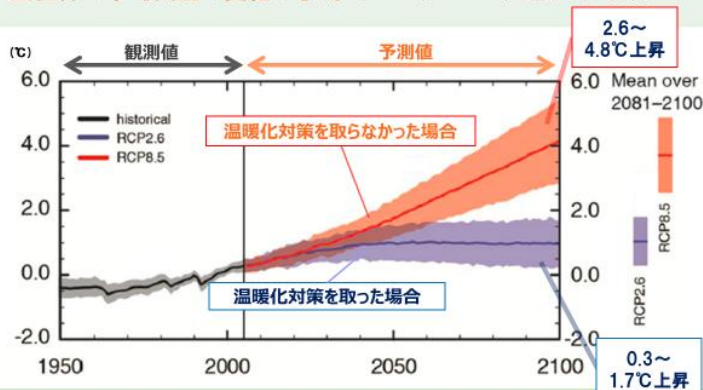
しかしながら、宅配事業の事業拡大によって燃料の使用量が増えています。やむをえないものではありませんが、地図システムの活用による配送コースの効率化やエコドライブ推進による抑制を行っていきます。また、営業車両での電気自動車の導入や次世代型のトラックの開発など、今後の課題として全国の生協と一緒に検討していきます。

今後も、CO₂の総排出量削減の為に、省エネのルールを定めたエコオフィス手順を職員全員が順守し、省エネ設備の改修を中長期計画を策定して実施していきたいと思っています。



	2013年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比	
電気[kwh]	4,072	3,934	3,965	3,909	3,898	-11	99.7%
灯油[L]	140	89	126	111	49	-62	43.9%
LPG(事業所用)[m3]	571	526	521	541	484	-57	89.4%
ガソリン(生協車両)[L]	58	64	59	53	48	-6	89.5%
軽油(生協車両)[L]	274	227	223	227	215	-12	94.8%
軽油(委託車両)[L]		28	30	35	42	7	119.1%
CO ₂ 排出量(t)	5,116	4,868	4,924	4,876	4,736	-141	97.1%
2013年度比(%)		97.6	95.2	96.3	95.3		

■世界の平均気温の変化の予測（1986年～2005年を基準とした変化）



省エネルギーの取り組み



電気使用量の削減に取り組んでいます ～昨年より0.3%削減できました～

コープあいづの電気の使用で、一番多くを占めるのがお店の冷ケースによるものです。次に空調機、照明の順となっています。

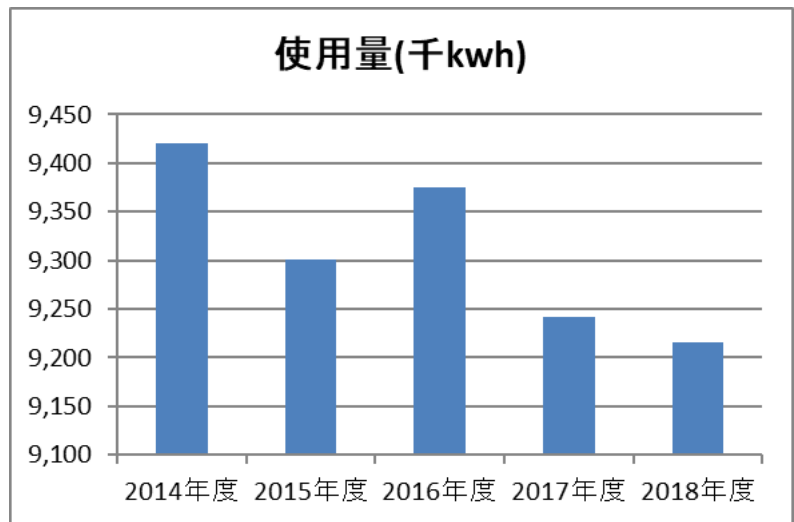
昨年より削減率は少なくなっていますが、ばんげ店で暖房機を電気式に変更したり、オール電化式に変えたため、ばんげ店の電気使用量は約10%ほど増えています。しかしながら、CO₂排出量は15%ほど削減できています。

具体的な改善点としては、ばんげ店のリニューアルによるところが殆どです。老朽化した冷ケースを最新式のCO₂冷媒を使用したものに変更しました。この冷ケースは、温室効果ガスの換算係数の高いフロンガスを使用しないことで、故障などで冷媒が漏れても温室効果ガスの排出は少なくなります。冷却効率も高いため、省エネになります。

また、冷凍食品では冷凍リーチインショーケース、アイスのケースでは、ふた付きのアイスケースを採用し、冷凍効率を高めています。空調機は、暖房では灯油式のものを使用していましたが、最新式の高効率エアコンに変更したことで、省エネにつながっています。厨房などでも、オール電化としたため、効率が高まっています。

ただし、ハード面だけの省エネではなく、ソフト面でも省エネの余地はまだあるものと思っています。空調機の使用ルールなどを定めた「エコオフィス手順」を守るよう徹底を図りました。その中で、2017年度では不十分だった年2回の冷凍ケースのハニカム清掃や室外機の清掃などを確実にを行うよう、点検を含めて強化しました。

改正省エネ法で求められているピークカットの取り組みでは、引き続きデマンドコントローラーの活用を行いました。2018年の夏は猛暑でアラームが鳴る頻度が増えましたが、少しの時間でも空調機を停止させたりすることによってピークカットができ、電気の基本料金を抑えることができました。



今後も、高効率の空調機やCO₂冷媒を使用したノンフロン冷凍機などを採用し、少しでも環境に優しい店舗していきたいと思ひます。また、2018年度から実施している冷ケースの冷やしすぎに関しても、更に改善していけるよう努力していきます。

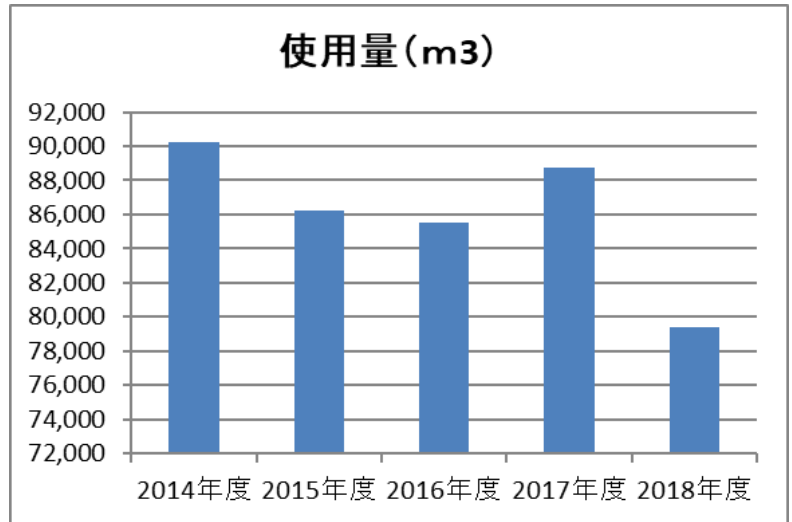
LPガス使用量の削減に取り組んでいます ～昨年より10.6%削減できました～

LPガスは、3店舗で空調機としてガスヒーポンの使用、5店舗で厨房のガス式フライヤーの使用によるものが殆どを占めます。その中でも、空調機の使用によるものが多くを占めています。

2018年度は、夏場のガスヒーポンの使用が多く、前年を超えていましたが、暖冬により冬の暖房での使用が押さえられ、年間では削減することができました。

また、ばんげ店で厨房をオール電化に変更したことや、冬場ひがし店で融雪の為に使用するヒーターの稼働が少なかったことも削減要因となりました。

今後も、外気温に左右されるところもありますが、無駄な使用がないよう、設定温度や使用基準などが徹底できるよう管理を強化していきます。



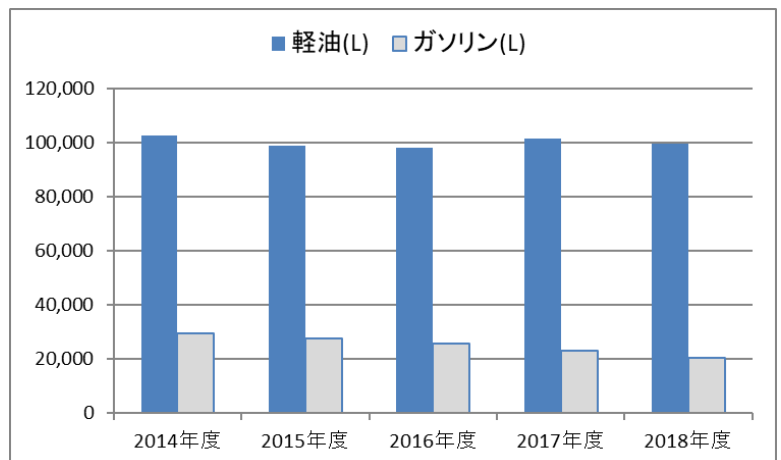
車両燃料使用抑制に取り組んでいます

～昨年より軽油使用量は1.9%の削減、ガソリン使用量は10.5%の増加でした～

燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用する軽油です。また、移動販売車両による使用量も増えてきています。

ガソリンの使用は、各店舗での商品配送や仲間づくりタスクなどの営業車などで使用しています。

2018年度、軽油の使用では配送ミスを少なくすることやエコドライブの推進、安全運転エコドライブ推進システム(EcoSAM)の運用強化、コース効率の見直しなどによって削減ができました。



ガソリンの使用は、営業範囲などによるところが多いのですが、比較的遠方の営業を強化したため、

増加となってしまいました。

車両燃料は事業を行う上で欠かせませんが、今後も営業実績も上げながら、省エネ運転に心がけることにより、使用抑制に努めていきます。

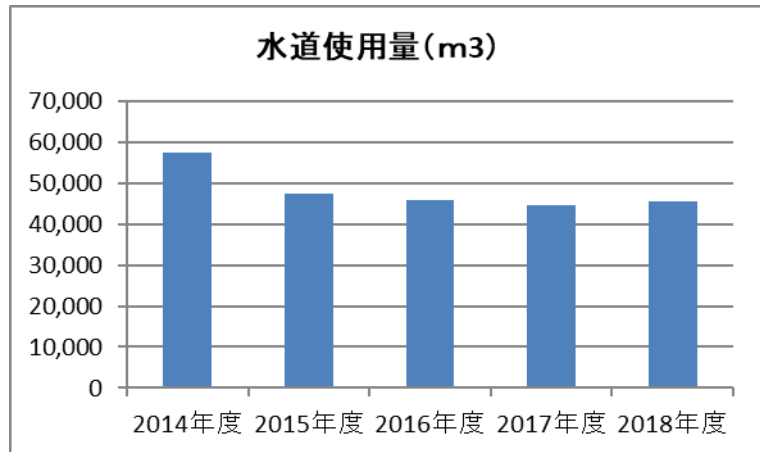
また、全職員を対象とした環境教育の中で省エネ運転を学び、安全運転と併せて実践していきます。



水道使用量の削減に取り組んでいます ～前年より 2.0%増加しました～

水道使用の殆どが、店舗での商品加工やトイレでの使用となっており、コントロールが難しい所でもあります。2015年度より節水コマの変更を進めてきており、使用量が抑制できてきています。

しかしながら、2018年度は融雪として水道を使用した店舗が多く、冬場の使用量が増加してしまいました。やむを得ないところもありますが、必要最小限として、夜間の出しっぱなしはしないなど、無駄をなくすよう幹部会等で徹底を図りました。



資源の使用量抑制に取り組んでいます



コープあいづでは事業活動を通して、大量の資源を使っています。事業拡大により、資源の使用量は増加してしまいます。しかし、限りある資源を有効活用し、できるだけ使用量の抑制ができるよう取り組んでいきたいと思っています。

最近ではプラスチック問題が大きな関心事となっています。私たちの普段の暮らしでは、多くのプラスチック製品を使用しています。容器包装は、食品の保管や安全性を確保するために必要なものでもあります。しかしながら、地球を今後も持続させていくためには、私たちにとって便利で快適な暮らしを与えてくれるものではありませんが、その見直しが必要だとも思います。

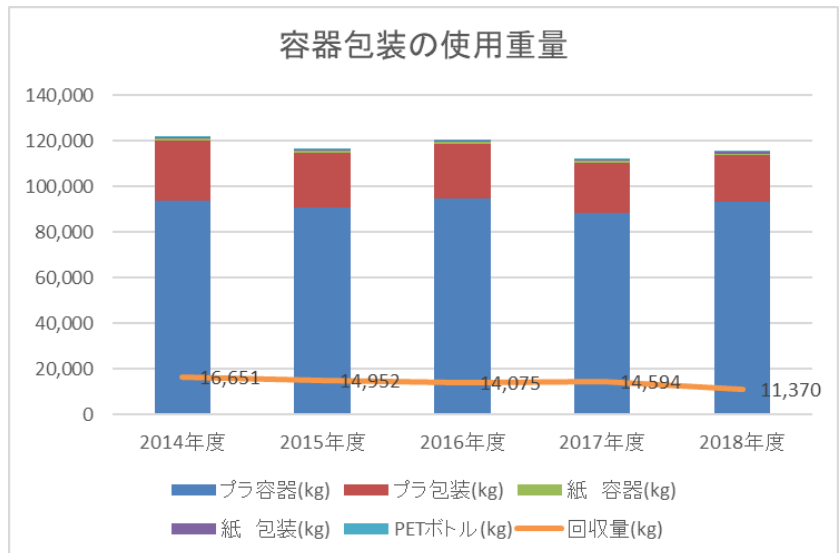
容器包装の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より 3.1%増加しました～

発泡トレイやラップ、レジ袋などの容器包装は、食品を安全で衛生的に、しかも便利に消費者に届ける為に使用しており、店舗などでの販売には欠かせません。

これらは、事業運営にとって欠かせない物であり、事業拡大によって減らすことが難しいものでもあります。ほとんどが化石燃料から作られており、少しでも使用量を減らしたり、店頭での回収を行う必要がありますと考えています。

2018年度は、容器包装の使用量が約3%増えました。増加したのはプラスチック容器です。バラ売りができない移動販売も増えてきています。少量のパックのニーズが高まっております、今後も増えていく傾向にあります。

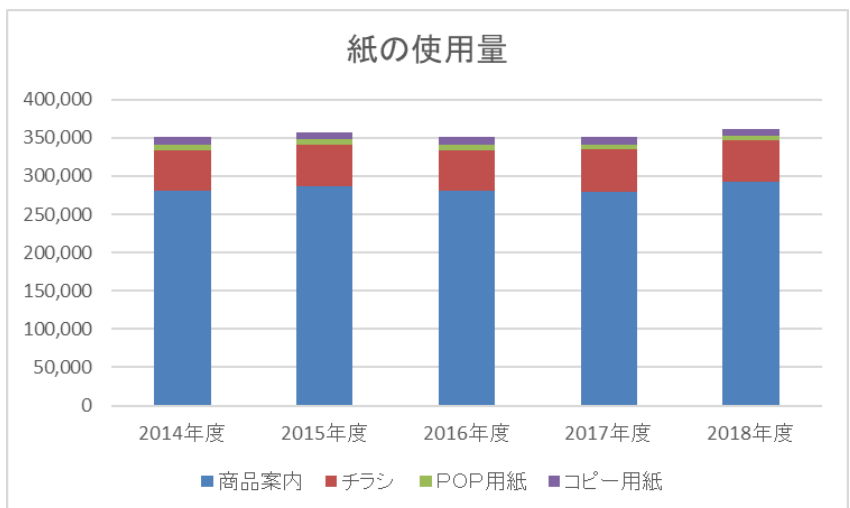
ただし、コープあいづでは、大量に排出したものは自ら回収を進めるという考えで店頭回収を強めており、2018年度は11,370kg（前年比77.9%）の回収を行う事ができました。回収量が少なくなってきたので、回収ボックス周辺での掲示も検討し、回収量を増やす取り組みを進めていきます。また、材料として入ってきた食品トレーや、日切れ品で廃棄する商品などのトレーもバックヤードで洗ってから乾燥させ、店頭の回収ボックスに入れリサイクルするようにしていますが、忙しくて十分実施されていない事業所もあるので、再度職員教育も行っています。



紙類の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より2.9%増加しました～

紙類の使用量で、一番多い物は宅配事業で配布している商品案内で、年間約292tにもなります。次に多い物は新聞折り込みチラシで年間約54tもの紙を使用します。どちらも事業活動には欠かせない物であり、減らすことは難しいのですが、商品案内は配達時に回収しており、すべてリサイクルに回しています。

それ以外で多いものは、コピー用紙で年間約9tにもなります。会議



資料などで多く使用しますが、環境に配慮し、植林木パルプ配合用紙を使用しています。また、お店のポップ用紙も多く使用しており、年間約5tにもなります。このような用紙は、個人情報載っているものなどを除いて、事業所にある分別ボックスで保管し、リサイクルに回しています。

今後も、リサイクル強める事や、会議資料の簡略化などにも努め、紙資源の使用削減に取り組んでいきます。

レジ袋削減に取り組んでいます ～レジ袋の辞退率は 87.5%、約 469 万枚の節約～

レジ袋の削減は、ごみ減量や地球温暖化対策だけではなく、無駄なものを使わない心や考え方を持つことによって、暮らしの見直し活動の取り組みのひとつであると考えています。

その推進の為、「レジ袋の無料配布中止」や「マイバッグ持参運動」を進めています。

また、会津若松市と「レジ袋削減に関する協定」を締結し一緒に削減の活動を進めています。

福島県とは、「マイバッグ推進デー協力店」に登録し、毎月8日・9日には、ビブズの着用と、店内放送によって、マイバッグ持参を呼び掛けています。

2018年度のレジ袋の辞退率は87.5%となっており、昨年より0.8%下がりました。マイバッグの日の呼びかけを強めることなどにより、より高い辞退率を目指していきます。

この取り組みで、年間約469万枚（約32t）のレジ袋が削減でき、ゴミ減量に役立ちました。原油換算では38,477ℓ（ドラム缶192本）、CO₂排出量では約15t-CO₂の削減ができた事になります。

ゴミ袋として使用される方もあり、レジ袋の辞退率を100%とする事は難しいのですが、引き続き店内放送などを通じ、マイバッグの使用を呼び掛けてきます。



毎月8日9日はマイバッグの日



リサイクル推進の取り組み

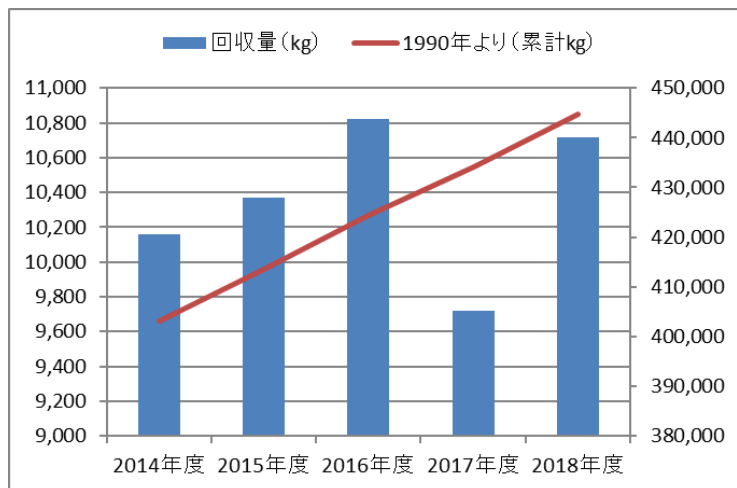


持続可能な循環型社会を目指して、組合員さんと一緒にリサイクル活動の推進を行っています。

紙パックの回収に取り組んでいます ～10,719kgの回収を行いました

牛乳パックなどの紙パック回収は、1990年より組合員さんが主体的に取り組む事から始まり、現在では各店舗のリサイクルボックスや宅配のトラックで回収しています。

組合員さんが回収ボックスに入れたいただいた紙パックは、店長などが古紙問屋に持ち込んでいますが、にいでら店や宅配事業で回収された牛乳パックは、会津若松市内にある共同作業所は無償でお渡ししており、共同作業所の運営資金と



して活用されています。

2018年度は、10,719kg（前年比 110.3%）の牛乳パックを回収しました。昨年度より 997kg 多くなっています。

コープあいづでは、牛乳パックから作られたコアノンロールなどの普及を行っており、リサイクルの輪が途切れないよう努力しています。



※2018年度の回収では、牛乳パック換算で 397,290 枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると 66,215 個分にもなります。1990 年からの回収量は累計で 446,309kg となりました。

食品トレーの回収に取り組んでいます ～11,370 kg の回収を行いました～

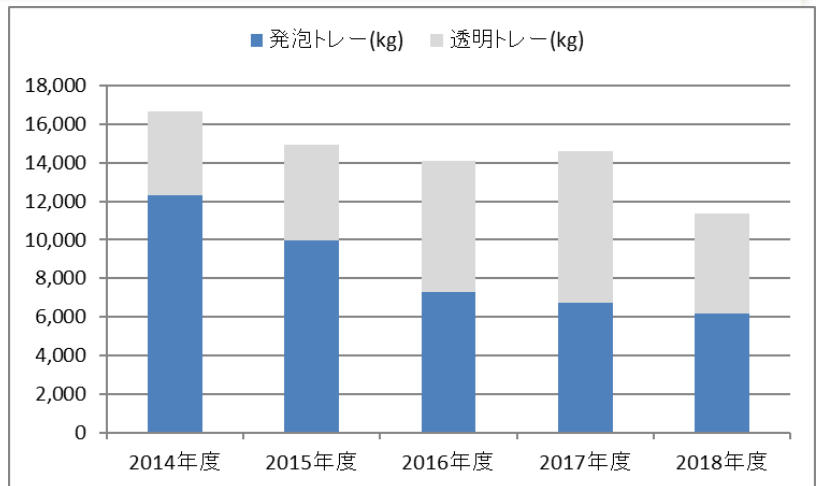
店舗で使用する容器包装の中でも、食品トレーの使用量が一番多くなります。食品トレーは石油から作られており、回収してリサイクルを行う事で、石油の使用量の抑制につながります。

コープあいづでは、発泡トレーと透明トレーの2種類の回収を行っています。

2018年度は、発泡トレー6,162 kgと透明トレー5,208 kgの回収を行い、合計 11,370 kg のリサイクルができました。

総重量では前年比 77.9%と減ってしまいました。使用トレー重量が増え、回収量が少なくなっていますので、店頭回収を呼びかけるポスターを掲示するなど、取り組みを強化していきたいと考えています。

また、リサイクルするだけではなく、再生品を積極的に利用しないとリサイクルが進みませんので、積極的に再生トレーを積極的に使用するよう心がけています。再生トレーを積極的に使用する事によって、石油資源の節約や CO₂ 排出量の削減につながります。



宅配事業で使用するシッパーの内袋を回収しています

～1,900kg の回収を行いました～

宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを内側に使用しており、その回収を行っています。

2018年度は 1,900kg の回収を行うことができました。前年比では、126.7%と昨年より多い実績となっています。事業拡大によって使用枚数が増えるため、回収量も増えていきます。回収率も、ほぼ 100%

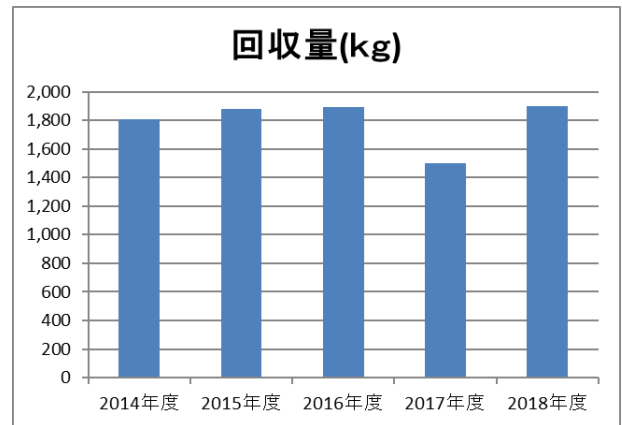
に近いものと推測しており、使用量とほぼ同じ量をリサイクルに回すことができていると考えます。

回収された内袋は、会津若松市内のリサイクル工場ではRPF（Refuse Paper&Plastic Fuel）化し、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されます。



RPF

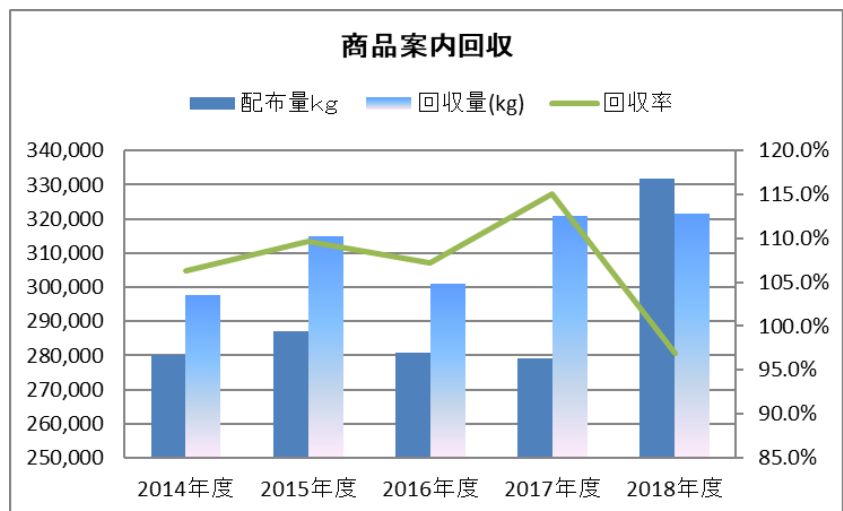
今後も、事業拡大により内袋の使用量が増加する事が考えられますが、コープあいづでは、資源の有効活用を促進する為、自ら回収しリサイクルをすることで枯渇資源の使用削減、ごみ減量に努めていきます。



商品案内の回収に取り組んでいます ～321,400kg の回収を行いました～

コープあいづにおける紙の使用量で、一番多くを占めるのが宅配事業で組合員に配布する商品案内（カタログ）となります。カタログでは、食品だけでなく雑貨や日用品、衣料品など、幅広い品ぞろえをするため、配布重量が増えてしまいます。

宅配事業は、毎週組合員宅にお邪魔するため、その際に容器などと一緒に回収できるので、効率よくリサイクルができます。



2018年度は、商品案内やチラシ、センターからのお知らせや担当者ニュースなど 331,673kg を配布し、321,400kg の回収ができました。回収率は 96.9% となっておりほぼ 100% の回収ができています。

※前年まで回収率が 100% を超えていますが、担当者ニュースなどの重量把握ができていなかったため。

エコステ(古紙の回収ステーション) ～39,948kg の回収を行いました～

2011 年度から、ぷらざ店の駐車場で始まった「エコ・ステ」は、たいへん多くの組合員さんにご利用いただいています。

冬期間は雪の為に休止していますが、2018 年度は雑誌 24,599kg、新聞 6,475kg、ダンボール 8,874kg、合計で 39,948kg の回収となりました。前年比 89.6% と前年度と比較して少し減りましたが、組合員には定着したものと思います。



他のお店にも設置してほしいとの声もありますが、スペースの問題で広がっていませんが、今後の中で検討していきます。

※「エコ・ステ」は、組合員さんが、お買物ついでに古紙をお持ちいただき、自動的に重量を量りポイントがたまるというシステムで、生協と古紙回収メーカーが共同で運営しています。紙の重量1kgで1ポイント加算され、300ポイントたまると、ぷらざ店で使用できる300円分の商品券が発券されます。ポイントカードはその場で発行されますので、皆様のご協力をお願いします。

廃棄物削減の取り組み



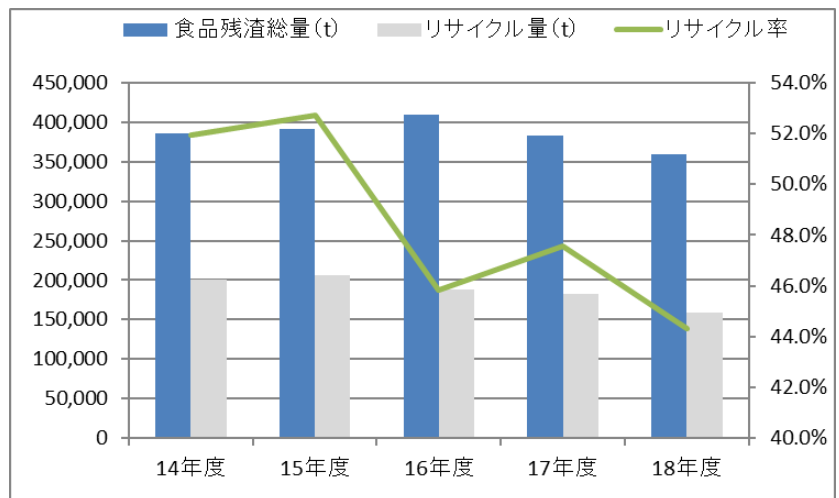
コープあいづから排出される廃棄物で、一番重量が多い物は事業系食品廃棄物で2018年度は359,668kg、次に多いのは事業系一般廃棄物で227,506kgとなっています。産業廃棄物は69,590kgを排出しています。

処分場を圧迫する廃棄物をできるだけ少なくするために、リサイクルに取り組んでいます。

食品リサイクル ～リサイクル率は44.3%となっています～

食品リサイクル法では、食品関連事業者には事業系食品廃棄物等の発生抑制が求められており、リサイクル率も毎年改善していく必要があります。コープあいづでは、EMSの管理項目として監視測定しており、継続的に活動をしています。

2018年度は、食品残渣総量は359,668kg、そのうち159,329kgをリサイクルしており、リサイクル率は44.9%となっています。リサイクル率は前年より3.2%低くなってしまいました。



食品リサイクル法で、食品小売業は2019年度までに55%のリサイクルが求められていますが、大きな乖離があります。

リサイクル率の低下の原因は、店舗の人員不足によって、廃棄商品などの分別や加工時の残さの仕分けが十分でないと考えられますが、法律で求められている内容でもあるため、2018年度よりEMS目標に設定し、全員教育の中であらためて分別の必要性和手順の確認をおこないます。

＊店舗から排出される食品残さは、会津若松市のリサイクル工場で堆肥化され、店舗で販売している固形堆肥「エコまる」になって、組合員さ



んの家庭菜園などに利用されています。また、産直農家さんにも利用いただき、リサイクルの輪ができています。できるだけ多くの方にご利用いただきたいと思います。

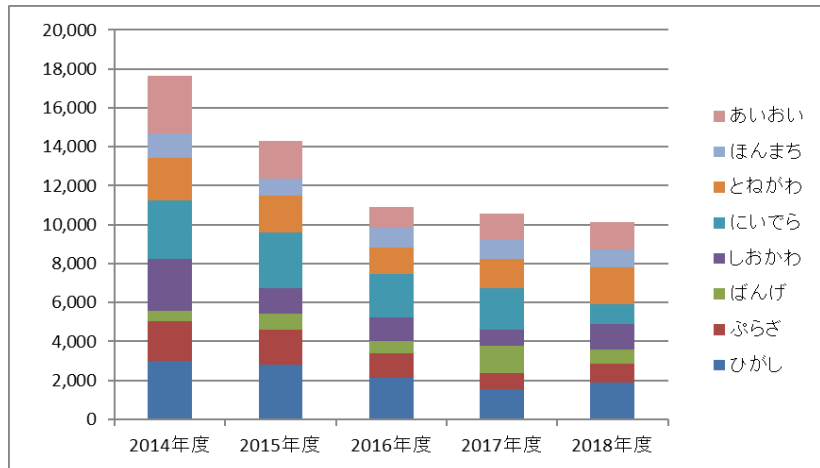
廃食油のリサイクル ～10,576kg のリサイクルができました～

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいづでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

にいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店・ばんげ店は、会津美里町にある「ピーターパン共同作業所」で廃食油を回収いただき、バイオディーゼル燃料（BDF）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。

ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

2018年度は、ピーターパン共同作業所で 5,980ℓ、あやめサービスで 4,163ℓ のリサイクルができました。リサイクル総量は、前年度比 95.9%となっていますが、排出されるすべての食用油をリサイクルに回しています。



フードバンクに取り組んでいます

～3,562kg の食品を提供できました～



フードバンクとは、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯などに無償で提供する活動です。

食料品の廃棄ロスを少なくする、“もったいない”の活動です。廃棄ロス削減による環境配慮の活動でもあります。フードバンクは、社会福祉貢献の活動です。

コープフードバンクは、食品の無駄をな

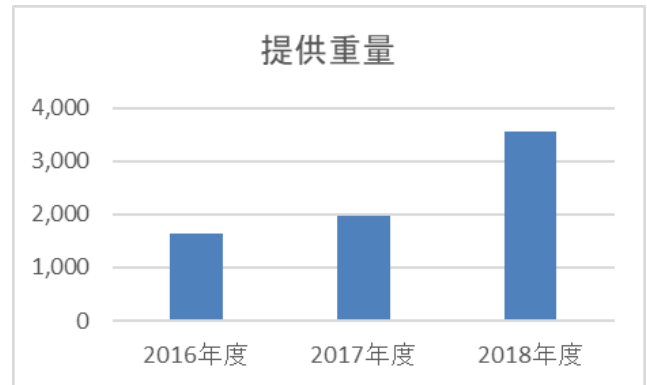


くすとともに、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりをすすめることを目的に、2012年みやぎ生協でスタートし、2014年にコープ東北サンネット事業連合へ移行した活動です。コープあいづはコープ東北サンネット事業連合に参加しており、一緒になって活動をしています。

会津での取組では、福島県社会福祉協議会や各市町村の社会福祉協議会などを通じ、2018年度は重量換算で約3,562kgもの物資を提供することができました。*廃棄物の減量にも役立っています。

活用事例としては、たとえば様々な事情で生活が苦しくなり生活保護を受ける方など、受給が決まるまでの緊急的な食糧支援などに活用されています。子ども食堂や母子施設などでも活用して頂いています。

また、コープあいづでは、こども食堂への支援として、会津若松市で2ヶ所、喜多方市で2ヶ所、会津美里町で1ヶ所に食材などの提供をしており、深刻化する貧困問題を地域の皆さんと一緒に考えていこうと思っています。



行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動



行政の会議等に委員として出席しています

福島県が主催する、「地球にやさしい“ふくしま” 県民会議 会津地方会議」の委員として参加し、事業に対する意見や提言をしています。また、企画委員として研修会や見学会の具体化にも参加しています。

会津若松市の、「会津若松市3R運動推進会議」の構成団体として参加しており、2017年度に続き、2018年度にも食品ロスについての学習講演も行いました。この会議の中で、市民団体の方々や事業者の方々と一緒に、ごみを出さない買い物を目指すために一人ひとりにできることは何なのかを一緒に考えることや、店頭などでの普及啓蒙活動に取り組んでいます。

福島議定書事業の取り組みに参加しています

福島県では、二酸化炭素排出量等の削減目標を定め、知事と議定書を交わす「福島議定書」事業を実施しています。

コープあいづでは、福島県が推進している「福島議定書」に毎年参加しており、電気、ガス、車両燃料などの削減目標を設定し、年間を通した活動に取り組んでいます。

また、事業活動での取り組みだけではなく、この中で家庭での省エネを推進していく「一日エコライフチャレンジ」を組合員さんと一緒に普及活動も行っています。

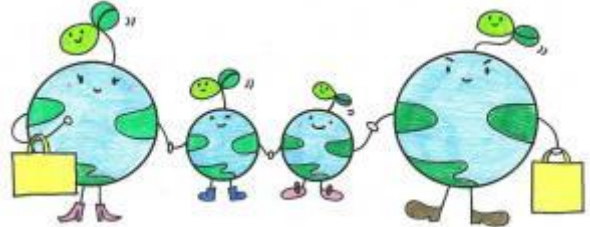


福島県が推進している「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録しています

福島県では、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向け、この「レジ袋無料配布中止」の取組みをさらに促進していくため、地球にやさしい“ふくしま”「ストップ・ザ・レジ袋実施店」参加登録制度を実施しています。

コープあいづでは、この取組みの前に行っていた「福島県におけるレジ袋の削減に関する協定～地球にやさしい“ふくしま”ストップ・ザ・レジ袋～」の締結から一緒になってレジ袋削減の取組みを行っています。

毎月8日、9日を「マイバッグ推進デー」としており、店内放送などを通じてマイバッグ持参などの呼びかけを行っています。



福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」に認定されました

福島県では、食料品小売店等の食品ロス削減の取組みとして、「もったいない！食べ残しゼロ推進運動」をすすめており、福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」の認定を行っています。

世界では、9人に1人が飢えに苦しんでいると言われていいます。それなのに日本では年間約639トンもの食品ロスが発生しています。国民一人当たり、茶碗1杯分の食品ロスが発生しています。

コープあいづは、地球温暖化防止などの環境問題に取り組んでおり、その趣旨に賛同し2018年10月4日に全8店舗が認定され、各店舗で木製の認定証、認定ステッカー、啓もう用のポスターの掲示を行っています。

各店舗では、廃棄ロスの削減について目標を設定して取り組んでおり、「夕方の売り切りの強化」、「賞味期限・消費期限が近い商品の値引き販売」などを行っています。また、消費者の皆様のご家庭でのごみや廃棄ロス削減の為に「ばら売り商品の品ぞろえ」「少量パックによる販売」などについても取り組んでいます。

今後も、組合員の皆様と一緒に廃棄ロス削減の取組みを行っていききたいと思います。



「あいづわかまつエコ事業所」に登録して環境保全活動に取り組んでいます

「あいづわかまつエコ事業所」とは、会津若松市の「第2期環境基本計画」に定めた「事業者の環境配慮指針」のうち、10項目以上に取り組んでいることが条件とされ、審査によって認定されるものです。

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2014121000045/>

↑ここで紹介されています。



市環境PR大使の
「いいもりん」

電気自動車普通充電器を設置しています

にいでら店（会津若松市）にて、電気自動車充電器（普通充電器）を設置し、電気自動車を利用される方への充電にご利用いただいています。

E V自動車充電器設置の目的は、次世代自動車普及促進により地球温暖化ガスの発生抑制に寄与することでの社会貢献と、組合員さんの利便性向上です。お買い物ついでの、ちょい足し充電として大いに利用いただきたいと思います。



組合員さんと一緒にすすめる環境保全活動



コープあいづでは、組合員による委員会を組織しており、暮らしの中から環境問題を考えたり行動したりする為、環境委員会を作って地域の中で活動しています。

環境委員会では、学習会やエコッキング教室の開催、大気測定（NO₂）や水質検査を継続的に行情報発信する活動、会津若松市で開催されている「環境フェスティバル」への参加、地域や行政の方と一緒に清掃活動などボランティア活動に参加する等、幅広い活動に取り組んでいます。

環境フェスティバルに参加しています 10月14日（日）鶴ヶ城体育館

環境委員会では、毎年、秋に会津若松市で開催される「環境フェスティバル」に参加しています。

2018年度は、例年通りエコチャレンジシート、リサイクル手作り体験（今年はチラシとビーズで作るブレスレット）、環境委員会活動報告展示に加えエシカル消費対象のCOOP商品の展示と説明を行いました。

例年だと健康祭り（会場；文化センター）と同時開催されますが、今年は環境フェスタ単独の開催となったために来場者が午前



中に集中し、コープあいづのブースも一時は混乱しましたが「こんなに人が集中したのははじめてだ」と言いながらも、環境委員の皆さんは冷静に対応していました。

「環境に対して多くの方に関心をもっていただけるし、私たちも改めて学習できる機会なので、参加していて楽しい」と環境委員の皆さんからの感想です。

エコチャレンジシート（スタンプラリー）への参加者は、332家族（1123人）となり、環境にやさしい暮らしを一緒に考える機会となりました。

滝沢浄水場見学(若松市)11月22日

環境委員会では委員会メンバーの学習活動として、毎年施設見学などを行っています。

2018年度は、会津若松市の滝沢浄水場を見学しました。

この浄水場は、災害に強く、安全・安心の水をつくり続ける先進の浄水場で、東北地方最大級のセラミック膜ろ過装置のしくみなどの説明を受けました。

また、第1次工事当時の貴重な資料も展示されており、身近な水でありながら、どうやって私たちの元に届くのかを知ることができました。



湖美来(みずみらい) 猪苗代湖舟津浜清掃 6月23日

6月23日(土)恒例となりました舟津浜清掃も、今年で7回目の開催になります。

参加人数も年々増えて、今年は過去最大の700名(昨年は約400名)を越す参加者となりました。中には関東や仙台から参加された方も見られました。

コープあいづからは5名が参加し、水辺に打ち上げられた漂流物を取り払い、夏の海水浴に向けてきれいに整える事が出来ました。



クリーンふくしま 鶴ヶ城公園 清掃 9月8日

福島県クリーンふくしま運動推進協議会は、清潔で潤いのある美しい県土を守る 県民運動を推進することを目的としており、毎年、啓発事業や清掃活動等を実施しています。

コープあいづ環境委員会も参加協力し美化意識の向上を高めています。

あいにくの雨の中でしたが、コープあいづ環境委員会では3名が参加し、傘を片手にゴミひろい清掃が行われました。



環境委員会エコクッキング 2月21日

今年のエコクッキングは、フライパン一つで作るスパゲッティをはじめ調理して残った端材や通常は捨てるキャベツ芯等をすりおろして作るサラダなど無駄の無い(色々なエコ)料理の提案がされました。

フライパンで作るスパゲッティは、水の段階からスパゲッティを入れ、固めにゆであがったところへ

お好みの野菜を入れる。水分が無なったらソースをからめると言う手間がかからず、洗い物も少なくエコな料理法です。
参加された皆さんからは、「洗い物が少なくて良いですね!」「ゴミの量が減らすことが出来てとても良かった!」「普段は捨てている材料を使ってサラダを作ったのには驚きでした。しかもおいしかったです。」
などの感想が聞かれました。



ペットボトルのキャップの回収を行っています

環境委員会ではエコキャップ運動に参加しており、にいでら店、喜多方燃料、本部に回収ボックスを設置して回収を行っています。

2018年度は、240kgの回収実績がありました。

回収したペットボトルのキャップは、荒川産業様を通じてプラスチック原料として売却され「特定非営利活動法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付しています。



水質検査に取り組んでいます 6月21日

環境委員会では毎年、各地区の河川の水辺環境と水質検査に取り組んでおり、河川の流れの速さや水質の簡易分析器具（パックテスト）を使ってCOD濃度を調査しました。

昨年と同じ若松市内を流れる湯川の水質を調査しました。

今年は東山ダムの管理者から、お話をお伺いする機会を持つことができ勉強になりました。

今年の特徴として、例年より水質が良い結果が出ています。



河川場所	外気温	水温	河川の状況	結果
東山 グランドホテル近く	23℃	20℃	水量が多く、目視ではきれいに感じる。	目視
湯川中流・天神橋付近	23.5℃		水量は少なく感じたが、水質はきれい。	3
湯川中流・川原町	24℃	20℃	昨年同様、ゴミが目立ち水が淀んだ感じで汚い。	4
湯川下流・汨橋	26℃	21℃	水質が汚れていて、川独特の異臭がする。	3
下水浄化処理場付近①	28℃	20℃	水質は安定してきれい。	1
下水浄化処理場付近②(浄化後)	28℃	22℃	水量が多く、流れも速く、水もきれい。	2

大気測定に取り組んでいます

環境委員会では、大気汚染の原因となる、NO₂の調査に取り組んでおり、3か月に1回の測定活動を行っており測定場所は、お店や小学校など38ポイントでの定点観測を行っています。

・2018年3月：最大値 0.0053ppm



- ・ 2018 年 6 月：最大値 0.0053ppm
- ・ 2018 年 9 月：最大値 0.0265ppm
- ・ 2018 年 12 月：最大値 0.0371ppm
- ・ 環境基準 0.04～0.06ppm以下（'78 年から施行）
- ・ 数値×係数（0.0053）

エシカル消費の学習会に取り組みました 8 月 23 日

7 月 19 日（木）支部センターで開催されたエシカル学習会の内容を基に、リニューアルされたばんげ店の売り場からエシカル消費対象の COOP 商品を探し出してみました。

参加された皆さんは、資料を見ながら手際よく探し出していました。更には他メーカーのエシカル表示の商品も探し出す余裕も見られました。

エシカル消費は、難しいものではなく、実はふだんの暮らしの中で簡単にできることだと思います。

また、生協が大切にしてきた、「助け合いの精神」や「くらしや社会を良くする」活動は、実は「エシカル」そのものだったりします。

エシカル消費が多くの人に広がれば、地球の問題、社会の問題を解決する大きな力につながると考えています。

これからも店舗の売場、共同購入のチラシの中などで、エシカル商品を分かりやすく表現したり、組合員さんと一緒に学習したりしていきたいと思います。



EMS：環境目標の達成状況

【方針1関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
全体	事業活動で排出するCO ₂ を6,053t以下にする（前年比-1%）	6,053t	5,912t	○

【方針2関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
管理本部	36協定違反を削減する。	① 0件	1件	×
	①月80H超残業 発生させない(前年0件)	② 0件	0件	○
	②特別条項年限度 発生させない(前年0部門)	③ 0件	0件	○
	③法定休日違反 発生させない(前年2件)			
管理本部	労災の発生を年間10件以下にする(2016年度11件)	10件	16件	×
DC燃料	配送。品揃えミスを0（ゼロ）にする。	0件	22件	×
共同購入	宅配事業の利用者人数を480,500人以上にする。	480,500人	470,542人	×

【方針3関連】

部署	目的目標		目 標	実 績	結果
店舗	店舗全体の廃棄ロス率を 2016年度比で35% 削減する	全体	-0.698%	-0.718%	×
		ひがし店	-0.534%	-0.918%	×
		ぷらざ店	-1.053%	-1.116%	×
		ばんげ店	-0.602%	-0.703%	×
		しおかわ店	-0.730%	-0.508%	○
		にいでら店	-0.559%	-0.538%	○
		とねがわ店	-0.857%	-0.916%	×
		ほんまち店	-0.479%	-0.517%	×
		あいおい店	-0.417%	-0.669%	×
	食品リサイクル率を2016年度より1%以上向上させる。 ※食品リサイクル法で、 毎年1%の改善が求められています。	全体	47.2%	44.9%	×
		ひがし店	29.9%	29.93%	○
		ぷらざ店	25.7%	18.96%	×
		ばんげ店	44.9%	40.31%	×
		しおかわ店	46.8%	41.12%	×
		にいでら店	60.7%	63.40%	○
		とねがわ店	49.8%	45.40%	×
		ほんまち店	69.6%	65.61%	×
		あいおい店	67.4%	68.4%	○

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
全体	重大クレームを前年度より削減する（2017 年度 123 件）	123 件以下	119 件	○

【方針 4 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
商品部	店舗の年間 G P 計画の達成	23.2%	23.9%	×
	・ C O O P 商品の普及 ・ 拡大供給金額 前年比昨年比 110%	110%	92.4%	×

【方針 5 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
組活	一日エコライフの参加者を 1,200 名以上にする (2015 年度 715 名)	1,200 人	1,123 人	×

【方針 6 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
支部	宅配配送車両の事故を 2016 年度より 1 件削減する。 (7 件以下)	7 件	5 件	○

EMS：環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2019 年 3 月調査）
消防法	・ 事業所の防火対象物の定期点検報告。 ・ 防火管理者の設置。 ・ 灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。	・ 危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。 ・ 防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。 ・ 施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査を受け、問題がない事を確認。＊一部、消防署より指摘のあった施設があったが、改善済。 ・ 避難訓練の実施が、年 1 回しか行われてない事業所があるので、確実に実施できるよう指導していく。

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2019年3月調査）
浄化槽法	・年1回指定検査機関による法定検査。（第11条） ・法定に基づく保守点検及び清掃。	・点検及び清掃の実施。 ・2018年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。 ・本部で、浄化槽の老朽化が見られる。今年度は水質悪化は見られなかったが、今後、下水道への接続も検討が必要。
下水道法	・排出水質基準の順守。 ・排出事故時緊急措置及び届出。	・水質基準で問題なし。 ・排水事故等は起きていない。
水質汚濁防止法	・河川等への油流失による汚染	・2018年4月にCMC通商の車両で燃料漏れ発生。＊適切に処理済み。
騒音・振動規制法	・指定区域内の特定施設の設置の届出。（冷凍機及び空気圧縮機の出力7.5kw以上の設備）	・届け出の維持確認済。 ・騒音振動の苦情発生なし。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。 ・廃棄物の保管、管理。 ・マニフェストの発行と管理	・マニフェスト管理で、引き続き電子マニフェスト化を進めた。混合廃棄物、食用油（あやめサービス分）などを除き、ほぼ変更を行った。 ・2018年度のマニフェスト発行状況報告書は6月までに報告予定。
容器包装リサイクル法	・使用量に応じたりサイクル義務。 ・排出抑制義務（店頭回収の促進、レジ袋の削減）及び報告義務。	・容器包装の使用量は、前年比103.1%と増加傾向。 ・トレーの店頭回収も、77.9%と前年より少なくなりました。 ・レジ袋削減の取り組みは、持参率87.5%と前年より低下してしまった。 ・遵法上の手続き 委託契約は、2019年2月に実施済。 定期報告は、2019年6月に報告予定。
食品リサイクル法	・再生利用等の実施及び目標の設定。平成31年度までに再資源化率を55%にする。以降は、80%になるまで毎年1%の改善を行っていく。 ・定期報告義務。	・2018年度分は2019年6月までに報告予定。 ・2018年度の再資源化は44.3%、前年より3.2%低下している。 ※法が要求している水準に達していない。 ・2018年度より、EMSの目標にも設定し進捗管理を行ったが、改善ができなかった。 2019年度は店長と現場の実態調査を行い、リサイクル率の向上を目指していく。

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2018年3月調査）
エネルギーの使用の合理化に関する法律	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任 ・中長期計画の策定。 ・定期報告の実施。	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。 ・中長期計画及び定期報告の実施。 ・管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。 ・エネルギー管理講習「資質向上講習」を受講した。
資源有効利用促進法	・分別回収のための表示義務	・P B商品は、メーカー点検で実施。問題ないことを確認した。
フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。	・フロンの漏えい量の把握、CO₂ 排出量換算で 818.34 トン-CO₂。前年比 61.8%と減少させることができた。 ・ばんげ店のリニューアルによって、CO₂ 冷媒冷ケースへの変更を図り、大幅に減少させることができた。 ・しかしながら、冷ケースの老朽化が進んでおり、漏洩が頻発する事業所もあり、以降も計画的な入れ替えをしていきます。
会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定	・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。 ・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。 ・レジ袋の無料配布の取りやめ。	・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。 ・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。 ・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。 ・毎月8日と9日は、福島県の「マイバッグデー」として、ビブズの着用と店内放送での啓蒙活動を行っている。
福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。	・レジ袋辞退率は 87.5%（前年比-0.8%）になっている。2年連続で低下しているため、ポスターや店内放送などを強化していく。
PCB 処理特別措置法	・PCB 廃棄物の届出・保管	・現時点で、コープあいつの保管する PCB はない。 ・ばんげ店の解体時には、微量 PCB に該当するものがないか業者に点検を依頼し、該当なしの結果を受けて工事を行った。

EMS：内部環境監査

1. 監査の目的

2017年度の内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動が進められ、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。

また、今年度からは内部統制の内容についても監査を行った。

今回の監査の重点は、EMS目標の進捗確認では、廃棄ロスの削減状況、電気等の運用管理状況の確認。順法状況の確認では、フロン法、消防法、食品リサイクル法、個人情報保護法、食品衛生法、労働安全衛生法、下請法、景品表示法、著作権法、等の確認を行う。内部統制の状況では、コンプライアンス体制、情報管理体制、リスク管理体制、職務の効率性確保について行う事とした。

今回の監査の重点は以下の項目とした。

- ・ EMS目標の進捗確認
- 廃棄ロスの削減状況、電気等の運用管理状況の確認
- ・ 順法状況の確認
- フロン法、消防法、食品リサイクル法、個人情報保護法、食品衛生法、労働安全衛生法、下請法、景品表示法、著作権法、等
- ・ 内部統制の状況
- コンプライアンス体制、情報管理体制、リスク管理体制、職務の効率性確保

2. 対象部門

コープあいつの全部署、計14サイトを監査しました。

- ・ 本部（開発、組活、役員室、共済）、管理本部、店舗運営部、商品部、
- ・ ひがし店、ぷらざ店、ばんげ店、しおかわ店、にいでら店、とねがわ店、ほんまち店、あいおい店
- ・ 共同購入センター、DC燃料課

3. 実施期間

- ・ 11月17日（土）～20日（火）（1事業所2時間を目安に実施）

4. 監査方法

- ・ 監査員2人以上でチームを編成し、チェックリストを用いて実施しました。
- ・ 監査員の都合がつかず、1名で実施した事業所もあります。

5. 監査員

- ・ 14名

6. 監査結果

1) 監査の目的に対する結果

2017 年度内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動が進められ、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。また、今年度から監査を行う内部統制の内容に関しても、実態がどうなっているのか、どんな課題があるのかという視点での監査を実施しました。

各部署で設定された目標に関しては、引き続き業務目標を課題として設定され取り組まれています。今年度からは食品クレームの目標も追加して取り組まれています。

特に労務管理については、職場労働安全衛生委員会の開催が進み、大きな前進があります。事業所でヒヤリハットを共有したり、他事業所の労災事故に内容を朝礼などで報告するなど、取り組みが広がってきています。廃棄ロスに関しては、対策が少し遅かったところもありますが、店舗運営部と店長が一緒になり改善への取り組みが進められています。

運用管理の所では、冷ケースの温度管理での冷やしすぎがありました。省エネ法における管理標準の運用面での問題であり、改善することは経費面でのメリットもあります。

遵法については、昨年度課題となった「改正フロン法」の簡易点検や「改正省エネ法」の管理標準の実施に関しては前年度より改善がされていますが、記録の不備が散見されます。営繕課より指示されていますが、保存されているホルダーについて理解されていない店長もあり、確実に実施できるよう改善が必要と思われます。消防法における訓練の実施に関しては、実施されていない事業所、1 回しか実施されていない事業所があります。財産や人の命を守る面で確実な実施が必要です。

内部統制の課題では、個人情報保護に関する課題が見出されました。個人情報の入った電子ファイルのパスワード設定などの徹底が必要と思われます。誤送信や悪意のある持ち出しなどのリスクがあります。また、組合員台帳やクリスマスなどの予約表の管理で、施錠のできるキャビネットがないなど、環境整備面での課題もあると考えます。また、お歳暮などの頂き物の活用についてのルールがなく、検討が必要です。

その他整理整頓による業務効率改善についても指摘がありました。お申し出用紙などの保管期限が決まっておらず、ルール化することで保管場所の確保や整理整頓につながります。バックヤードヤードの整理整頓では、商品でないものがある、使用していないと思われる什器があるなど、不要なものは置かないことでスペースの確保などにつながり、出し忘れによる廃棄ロス削減にもなるものと思います。商品陳列棚の上は、改善が進んできていますが、汚れが目立つところや、台車などが載っているところもありました。日常的な点検が必要です。

良い事例もいくつか見いだせました。にいでら店では、鮮度不良によるお申し出を減らす為に独自に目標を設定してお店全体で取り組み、改善が図られています。にいでら店やあいおい店では、廃棄ロス金額の目標を設定し、毎日部門で廃棄金額をチェックしています。ほんまち店では、定期的に賞味期限チェックを行っています。ばんげ店では、値引きを夕方の時間で人がいない部門の商品も行うようにして、確実な売り切りを進めています。今後の横展開を期待します。

結論として、EMS（環境マネジメントシステム）は概ね構築されていると判断します。

しかし、システムの運用で、フロン法の簡易点検や職場労働安全衛生委員会の開催など、確実に実施できているかの点検が一部弱いものと思われます。進捗管理はされていますが、計画したこととの関係

での評価を行い、次の課題に取り組むという、PDCAアクションが弱い面もあります。

事務局での点検強化を行い、管理責任者への報告、マネジメントラインでの業務指示の流れを作り、PDCAサイクルがスムーズに回っているような仕組みづくりと管理強化を期待します。

尚、内部環境監査の目的、対象事業所、監査所見の状況については、事務局がまとめた資料（別紙）をご覧ください。

2) 監査で気が付いた改善点（所見数）（）内は、昨年の数値

所見総数：43件（31）

不適合B：5件（3）、観察：15件（5）、推奨：8件（8）、プラス：15件（15）

3) 監査の指摘事項

①不適合B（5件）

- ・ 法的要求事項
 - 1年以上冷ケースの温度計が壊れていて温度測定が行われていない。（ぷらざ店）
 - フロンの簡易点検の記録がない。（ぷらざ店、にいでら店、とねがわ店）
- ・ 事故緊急時
 - 灯油スタンドで事故緊急時の訓練が行われていない。（DC燃料）

②観察（15件）

- ・ 目的目標
 - 食品リサイクル率が落ちているが、原因追求と対策が行われていない。（とねがわ店）
- ・ 教育訓練
 - 新しく入った方への環境教育を行ってください。（ほんまち店）
- ・ 運用管理
 - ロードラインオーバーは見られます。（ほんまち店）
- ・ 業務の効率性
 - バックヤードの整理整頓を行ってください。（ばんげ店）
- ・ 個人情報管理
 - 重要な情報が入っているパソコンが誰でも見ることができます。パスワード管理が必要だと思います。（店舗運営部）
 - 個人情報が含まれる電子ファイルにはパスワード管理が必要です。（商品部、DC燃料）
 - クリスマスの予約表が机の上で保管されています。施錠管理が必要です。（しおかわ店）
- ・ コンプライアンス体制
 - COOP 共済勧誘方針が掲示されていません。（DC燃料）
- ・ 下請法
 - 業者から贈り物が個人宅に届いています。また、頂き物の処分方法が明確になっていません。（店舗運営部）

- ・ 労務管理
 - 名札の着用されていない方があります。(商品部)
- ・ 事故緊急時
 - 消防訓練が未実施。(あいおい店、共同購入センター)
- ・ 監視測定
 - 管理温度帯が記入されていません。(とねがわ店)
 - フロンの漏洩があります(頻発している)。経年劣化もありますが、温度管理を行い、漏洩量を最小限に抑えて下さい。(しおかわ店)

③推奨（8件）

- ・ 運用管理
 - 冷ケースの温度帯が、基準値より低くなっています(冷やしすぎ)。設定温度を上げることで省エネにつながります。(ひがし店)
- ・ 情報管理
 - お申し出ファイルが保管されているが、処分のルールが明確でない。基準を設け、古いものは処分した方が良い。(店舗運営部)
 - 古い組合員台帳が保管されているが、保管基準を設けた方が良い。(管理本部)
- ・ 個人情報管理
 - 会計サーバーや店舗連絡用に誰でもは入れる。閲覧制限をかけた方が良い。(管理本部、あいおい店、本部)
 - みしらず柿の入力など、個人用パソコンで入力し、USBメモリで店舗連絡用にコピーしている。支部サーバーに直接入力するようにした方が良い。(ほんまち店)
- ・ 不適合是正
 - 廃棄ロス削減で、9月度より削減できているが、他店と比較してまだ多いと思われますので、引き続き対策を行ってください。(ひがし店)

④プラス（15件）

- ・ 目的及び目標
 - 廃棄ロスの削減対策で、各部門の予算を設定し、日常管理することで削減できています。(にいでら店、あいおい店)
 - 廃棄ロス削減の改善で、具体的な対策を行い改善ができています。(ひがし店、店舗運営部)
 - 廃棄を減らす意識(づくりで)、他部門の値引き管理も実施されています。(ばんげ店)
 - 鮮度不足のお申し出件数の目標を設定し、改善が進んでいます。(にいでら店)
 - 投入時間や残業時間のコントロールが進んでいます。(とねがわ店)
 - 職場労働安全衛生委員会の開催ができるようになってきています。(管理本部)
- ・ 運用管理
 - 燃料配送で、コース管理や地図カードへの記入内容で改善が進んでいます。(共同購入)
 - ケースの温度管理において、設定温度を管理温度帯の上限近くで維持できるように運用され

ています。(ばんげ店)

- ・業務の効率性
 - トレイの取り扱いで、発注方法をタブレット処理に変更し、効率が改善されています。また、業者と相談し、アイテムの整理を進めており、さらなる改善が期待できます。(商品部)
- ・リスク管理
 - 賞味期限チェックを毎週定期的実施する事で日付切れを防いでいる。(ほんまち店)
 - 労働安全衛生委員会が行われ、ヒヤリハットの共有がされています。また、他店舗での労災発生時には、チーフ会議で情報共有がされていて、労災の発生抑制につながっています。(とねがわ店)
- ・労務管理
 - 店長の残業管理で、独自の一覧表で管理把握されており、定期的な指導が行われています。(店舗運営部)

7. 付記事項

- ・ PCに入っている個人情報の管理が不足している。漏洩防止のためにパスワード管理が必要である。身しらず柿、桃、灯油利用者など、悪意を持って個人情報を持ちだされる可能性がある。
 - パスワードの設定方法も周知されていないのではないか？
- ・ USBメモリの使用については、システム管理者から危険性が指摘されている。
 - 不便となる側面もあるが、個人情報を守る面では必要な事である。
- ・ 組合員台帳やクリスマス注文書の管理で、施錠ができない事業所もある。
 - 実態を調査し、環境整備も検討が必要だと思われる。
- ・ パソコンを使用する頻度が増えており、個人パソコンの使用も実態としてある。パソコンの使用について、運用ルールを整理することが必要でないか。併せて、実態を調査し、必要台数の配備も必要ではないか。
- ・ 個人宅に贈り物を送っている業者は特定の業者のようなので、組織として個人への送付を行わないように要請知る必要があると思います。
- ・ 内部統制の監査が加わり、監査の範囲が広がった。法律を守ることや労務管理が重要になってきている。来年には有給休暇の取得についても義務化されてくる。きちんとやれる仕組みをつくり、守られているかチェックしていく仕組み作りが求められてくる。

8. 是正確認

各指摘事項については、軽微以上の指摘は、担当監査員が是正措置または是正計画の有効性を確認します。尚、是正計画及び是正の有効性については、3ヵ月後に事務局が、実施状況を確認するようにしました。

以上

EMS：環境データ

1. 使用量

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
エネルギー	電気使用量(kwh)	9,419,858	9,300,960	9,374,478	9,241,492	9,216,069	99.7%
	LPG使用量(m3)	90,240	86,236	85,484	88,758	79,358	89.4%
	灯油使用量(L)	50,851	35,646	50,482	44,471	19,511	43.9%
	軽油(L)	102,867	99,020	98,121	101,738	99,828	98.1%
	ガソリン(L)	29,297	27,629	25,502	22,892	20,490	89.5%
資源	水道使用量(m3)	57,565	47,555	45,896	44,614	45,495	102.0%
	紙 合計(kg)	350,481	357,034	351,344	350,865	361,027	102.9%
	商品案内	280,160	287,200	280,800	279,070	292,320	104.7%
	チラシ	52,751	54,054	52,962	56,476	54,392	96.3%
	POP用紙	8,288	7,265	7,447	5,380	5,116	95.1%
	コピー用紙	9,282	8,515	10,135	9,939	9,199	92.6%
	プラ容器(kg)	93,776	90,909	94,700	88,316	93,565	105.9%
	プラ包装(kg)	26,541	24,160	24,122	22,084	20,240	91.7%
	紙 容器(kg)	735	838	863	826	613	74.2%
	紙 包装(kg)	554	565	517	582	933	160.4%
	PETボトル	361	346	419	478	438	91.6%

2. CO₂排出量

	2013年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比	
電気[kwh]	4,072	3,934	3,965	3,909	3,898	-11	99.7%
灯油[L]	140	89	126	111	49	-62	43.9%
LPG(事業所用)[m3]	571	526	521	541	484	-57	89.4%
ガソリン(生協車両)[L]	58	64	59	53	48	-6	89.5%
軽油(生協車両)[L]	274	227	223	227	215	-12	94.8%
軽油(委託車両)[L]		28	30	35	42	7	119.1%
CO ₂ 排出量(t)	5,116	4,868	4,924	4,876	4,736	-141	97.1%
2013年度比(%)		95.2%	96.3%	95.3%	92.6%		

3. リサイクル量

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
牛乳パック(kg)	10,156	10,367	10,820	9,722	10,719	110.3%
発泡トレイ(kg)	12,294	9,979	7,279	6,731	6,162	91.5%
透明トレイ(kg)	4,357	4,973	6,796	7,863	5,208	66.2%
発泡容器(kg)	20,955	19,704	20,073	18,732	20,527	109.6%
内袋(kg)	1,810	1,880	1,890	1,500	1,900	126.7%
商品案内(kg)	297,800	314,850	301,050	321,010	321,400	100.1%
食品残さ(kg)	200,436	206,238	187,854	182,442	159,329	87.3%
廃食油(kg)	17,635	14,310	10,925	10,576	10,143	95.9%
エコステ(kg)	40,760	42,890	44,890	44,586	39,948	89.6%
合計	606,203	625,191	591,577	592,586	575,336	97.1%

4. レジ袋辞退率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
使用重量(kg)	4,297	4,424	4,433	4,347	4,486	103.2%
レジ袋辞退率	88.8%	88.7%	88.5%	88.3%	87.5%	99.1%

5. 食品リサイクル率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
食品残渣総量(t)	385,845	391,133	409,839	383,750	359,668	93.7%
リサイクル量(t)	200,436	206,238	187,854	182,442	159,329	87.3%
リサイクル率	51.9%	52.7%	45.8%	47.5%	44.3%	93.2%

6. 商品案内回収率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
配布量kg	280,160	287,200	280,800	279,070	331,673	118.8%
回収量(kg)	297,800	314,850	301,050	321,010	321,400	100.1%
回収率	106.3%	109.6%	107.2%	115.0%	96.9%	84.2%

7. 環境会計

環 境 保 全 効 果							
環境保全効果を表す指標					2018年度実績	2017年度との差	
	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水 光 熱	電気(kWh)	9,216,069	-25,423	
				ガス(m3)	79,358	-9,401	
				灯油(ℓ)	19,511	-24,961	
				水(m3)	45,495	881	
			燃 料	軽油(L)	99,828	-1,910	
				ガソリン(L)	20,490	-2,402	
		エネルギー消費によるCO2(t)			4,736	-141	
			廃棄物の排出(kg)			227,506	-30,248
廃棄物のリサイクル量	食品残さ、廃食油(kg)		159,329	-23,113			
上・下流コストに対応する効果	事業活動から算出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用重量			4,486	139	
		回収リサイクル量(kg)	牛乳パック			10,719	997
			食品トレー			11,370	-3,224
			商品案内			321,400	390
			ビン			6,985	4,179
			缶			2,646	945
			PET			4,807	2,102

*生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（廃製品・包装などのリサイクル、リユースおよびグリーン購入コストなど）

8. ちょっとECO（部内報で、職員向けに発信している内容です。一例を紹介します。）

1) 湯たんぽのすすめ

◇湯たんぽの場合

- ・お湯を3ℓ沸かすためにガスを使います。
- ・ガスの使用量：0.0095m³（3000cal×（100-24）/24000kcal/1000）
- ・ガス代：0.0095m³×487 円≒4.6 円/日=142.6 円/月

◆電気毛布の場合（弱で使用）

- ・消費電力：55W×0.6×8h=0.264kwh
- ・電気代：0.264kwh×26 円≒6.9 円/日=212.8 円/月

※湯たんぽだと月に約70円お得になります。

朝、車の窓ガラスを溶かしたり、洗剤を融かしたりもできます。そしてなにより、自然の暖かさが気持ちいいです。

※CO₂は40%も少なくできます！

2) 食品ロスを減らそう

日本の食品の廃棄は年間632万トンとされています。一人当たりに換算すると、お茶碗約1杯分（約136g）のご飯を毎日捨てているのと同じ量になります。

世界では、年間13億トンの食品が食べられることなく捨てられている。全世界で生産されている食品の約3分の1に相当します。

全世界で8億人近くが、十分な食料を手にできていない状況のなか、もったいない話です。

環境問題を解決するには、一人一人が「もったいない」を意識して行動することが大切です。

買ったものは使い切る・食べ切るようにしましょう！

2018 コープあいづ 環境報告書

発行日 2019年4月30日
 対象期間 2018年3月21日～2019年3月20日
 発行 生活協同組合コープあいづ
 福島県喜多方市字二丁目 4669-2
 お問い合わせ先 コープあいづ 役員室 新山敦司
 TEL 0241-22-1041 FAX 0241-24-3504
 Mail a_niiyama@coop-aizu.jp

※環境報告書は、コープあいづのHPでも公開しています。

カラーとなっていますので、ぜひご覧ください。

http://www.coop-aizu.jp/eco/2018_eco_report.pdf